

特別な支援を要するクラスにおけるリトミック授業 —ジュネーヴ州公立小学校における事例—

今由佳里*

(2015年10月27日 受理)

The “Rhythmic” in Special Class —A case study of the public elementary school in Canton of Geneva—

KON Yukari

要約

小学校における音楽教育は、専門家を育てるための教育とは性格が異なり、子どもの感性をひらき・ひきだす学習が重要となる。スイスの授業を参観すると、音楽以外の芸術分野から音楽学習に総合的にアプローチし、子どもの五感を刺激する音楽教育がなされていることに気づかされる。授業では音の動きをシフォンの布やリボンを用いて視覚に訴える学習を行ったり、グラフィックによる音楽表現、絵画に描かれている人物から発せられている声の即興的表現、パントマイム、形と音のコントラストの関係など音楽以外の芸術分野からアプローチし、様々な感性を刺激する学習が展開されているのである。ジュネーヴの小学校では、とりわけ身体の動きを積極的に授業に取り入れた学習が展開されており、それは特別な支援を要するクラスにおいても同様である。これらの活動は、子どもたちの心にいわゆる「音楽の種を蒔く」学習となるよう工夫がなされている。

本稿では、スイス・ジュネーヴ州公立小学校における特別な支援を要するクラスのリトミック授業を一事例として取り上げ、音楽学習の内容とその効果について報告したい。

キーワード：スイス、小学校、音楽教育、特別な支援を要するクラス、リトミック

* 鹿児島大学教育学系 准教授

はじめに

スイス・フランス語圏の州都であるジュネーヴ州の学校音楽教育の大きな特徴は、総合的なアプローチのなかでもとりわけ音楽と身体の動きとの関係、リトミックを多用した音楽学習にある。この地は、リトミック教育を行ったジャック・ダルクローズ (Émile Jaques-Dalcroze, 1865-1950) が教鞭をとった地であるため、彼の音楽教育思想はプライベートな音楽教育機関のみならずジュネーヴ州の学校音楽教育にも大きな影響を与えており、音楽科の授業ではリトミックが教育の主要な内容として含まれている。ジュネーヴ州の多くの小学校では、4年生まで身体の動きを積極的に取り入れた音楽活動を公立学校において展開し、子どもたちの音楽的感性を刺激しているのである。小学校には、“Salle de Rythmique” と呼ばれるリトミック授業のための専用教室がおかれ、音楽専科教員と同様にリトミック専科教員が常勤し、州の公教育課には「音楽・リトミック科」というセクションが置かれている。

リトミックについては、日本において非常に親しまれている音楽教育メソッドのひとつであり、これまで幼児教育やプライベートな教育機関におけるリトミック教育については重点的に研究がなされてきた。しかしながら、一般教育である公立小学校における導入と展開の方法について、特にスイスの事例を用いた検討はなされていない。本稿では、筆者が観察した特別な支援を要するクラスにおけるリトミック授業を一事例として取り上げ、その概要を把握するとともにリトミックを適用する効果について報告したい。

1. スイス・フランス語圏の学校音楽教育

スイス・フランス語圏の学校音楽教育は、他分野の芸術活動を取り入れた総合的なアプローチによる音楽学習が展開される傾向にあることは、筆者のこれまでの研究で明らかにしてきた。フランス語圏の州都であるジュネーヴ州に関しては、身体の動きを導入した学習、一方フランス語圏第二の都市があるヴォー州ではとりわけ絵や線、図形など視覚芸術を取り入れた音楽学習が展開される傾向にあり、総合的なアプローチという視点の共通性はあるものの、各州でその性格は異なっている。とはいえ、スイス・フランス語圏全体の教育的構想を表す『スイス・ロマンド教育計画』¹には、他分野の芸術活動を加えて総合的な視点から音楽学習を行うことは子どもたちの感性をひらき、このアプローチ方法を推進している旨が記されている。さまざまな領域から自由に表現を探索することによって、子どもたちのイマジネーションは膨らみ、対象に関するより具体的なイメージをひきだすことができる。またそのことが、子どもたちの音楽表現力育成に役だっているのである。以下図1は、ジュネーヴ州小学校の『習得目標』²に掲げられている「目標の設定と構成」である。



図1：目標の設定と構成

図1を見ると、音楽学習は歌唱、即興・創作、鑑賞活動のみならず、身体の動きについても記述されており、ジュネーヴ州におけるこの活動の重要性が理解できる。また具体的活動例においては、鑑賞の授業で音楽の流れを身体で表現することとあわせて線や絵に表す活動、図形から音楽を考え出す活動、ロールプレイングについても記述されており、総合的な視点から子どもたちの音楽学習を推進していることがここからも理解できる。

日本の学校音楽教育では、身体表現の活動は低学年でのみ取り上げられ、学年が進行するにつれて実践が極端に減少する傾向がある。これは低学年では、幼児期特有の「同一視」の状態が子どもたちにまだ残っており、身体表現によって物にも動物にもなりきって表現することを好む傾向があるためである。しかし、音楽と身体とのかかわりは「同一視」だけではなく、ジュネーヴで行われているような子どもの音楽表現力をひきだす導入の方法も見られる。ジュネーヴでは、身体の動きが聴覚の助けになることを重視して音楽教育を行っている。すなわち、音楽の全ての要素（音感・リズム感・拍子感・強弱・ニュアンスなど）を、身体を動かす経験を通して感じ取ることによって、子どもたちは音楽を効果的に学習していくのである。また、身体の動きから音楽を学ぶことによって、子どもたちは集中力、記憶力、反応力、反射性、想像力、及び創造力を高められる効果が認められており、日本の学校音楽教育における展開の意義を有しているのではなかろうか。

2. マイユ小学校における特別な支援を要するクラスのリトミック授業

マイユ小学校（Ecole du Mail）は、旧市街に近いジュネーヴ市の中心部に位置する小学校であり、ジュネーヴ市内の中でも歴史が古い学校のひとつである。多くの国際機関が所在するジュネーヴという土地柄のためか、小学校にはスイス以外の国籍を有する児童も多く在籍している。



(1) マイユ小学校特別な支援を要するクラスにおける実践

本項では、マイユ小学校における授業を取り上げ、身体と音楽との関わりを通したリトミック授業の特徴と効果を導きだしていきたい。

授業の概要

Special と呼ばれる 6 歳から 11 歳児が在籍する特別な支援を要するクラスの授業を観察した。このクラスは、ADHD や軽度の学習障害がある児童、両親ともに移民でフランス語が話せない等の問題がある児童が在籍している。

観察日時：2012年11月19日（月）2時間目

指導者：ヴィヴィアン・グランジョワン

クラス：Special（6～11歳が在籍）

児童数：7人

教室：RYTHMIQUE

本授業では、木の葉が舞い落ちる様子を、音楽にあわせて身体表現することから始められている。後半は、アルファベットや果物の「形」を音楽の変化を聴き分けて瞬時に身体で反応する活動を行っている。

表1：クラス Special の授業内容

順番	授業の流れと活動内容
1	子どもたちは、一言も話さず一列で教室に入ってくる。
2	教師は「今日は寒いね」と話しかけながら、手の平や手の裏を擦り合わせる仕草を児童に見せ、子どもたちも同じ動きをするよう指示する。両手で水をすくうような形をつくって、そのくぼみの中に温かい息を吹きかけたり、貝のような形をした手の平に声をだしてくぐもった声質を感じさせたりしている。子どもたちは、積極的に手を擦り合わせたり声をだしたりして笑顔で活動している。
3	胡坐で座り、両手を片方ずつ天上へ向けて思いっきり伸ばす。木の葉が舞い落ちる様子を手を使って、ヒラヒラさせながら上からおろしていく。子どもたちは、いかに美しく、そして木の葉らしく手の動きを表現できるか工夫をこらしている。下行形のグリッサンドが鳴らされたら、木の葉が舞い落ちる様子を表現したり、音楽の要素を聞き分けて身体で表現している。
4	次に両足で木の葉が落ちる様子を表現するが、手に比べて足の方が力の加減をコントロールしている様子が見られる。子どもたちは仰向けに寝転がって両足をあげ、先生がピアノの高音でアルペジオを弾いたら、木の葉が風に舞って動く様子を音楽に反応して足の動きで表現している。アルペジオをならす時間を長くすると長く足を動かし、音楽が止まったら瞬時に足の動きを止める。

5	リトミックのために作曲された秋の歌を歌いながら、子どもたちは歌詞の内容や音高、速度、転調など音楽の変化に合わせて身体の動きを変えている。歌に合わせて、手を擦り合わせる仕草や木の葉が落ちる様子を表現しながら笑顔で歌っている。
6	授業を観察していた筆者について、質問タイムが設けられ、日本の歌「さくら」を歌いながら日本の四季を紹介する。桜の花も、ひらひらと舞い落ちるという話をする、子どもたちはさくらのメロディーに合わせて秋の歌と同じように手をひらひらさせて桜の花びらが舞い落ちる様子を表現する。
7	アルファベットを身体の形で表す。最初に教師は、アルファベットの V を身体で表すとどうなるか子どもに問いかける。その質問に答えて、子どもたちは挙手でアイディアを発表していく。T は足を揃えてまっすぐ立って、両手を平行に肩の所で挙げる。I は、両手は身体にぴったりとくっつけて、足も揃えて立つ。V は両足で V の形になるようにしようとの話し合いで形が決まる。教師のピアノの合図に反応して、様々なアルファベットの形を子どもたちは身体で表現する。
8	教師が即興で弾くピアノに合わせて、子どもたちは動きを変えている。子どもたちは、音高や速さ、リズムの変化を聴きとって指示されている身体表現を行う。高音では手拍子、低音ではジャンプ、中音になると手をぶらぶらさせるなど。音に自身を瞬時に反応させている。
9	教師は、「秋には、どんな果物を食べる」という問いかけ行う。ひととおり発言させた後、果物の名前がたくさん歌詞にでてくる歌を CD で流し、どのような果物がでてきたか、名前を子どもたちに問いかける。子どもたちからは、リンゴやブドウなど活発な発言がなされている。
10	教師は、子どもたちが答えた果物のフォルムを自身の身体で表現するよう指示する。一つ目はバナナ、二つ目はリンゴ、三つ目はブドウ。先生が果物の名前をいうと、子どもたちはその形を表現している。子どもたちは、バナナでは両足を揃え、手の平を合わせて上に伸ばし、腰のあたりから一方に曲線を描くように身体をしながらバナナの形を表現している。次のリンゴでは、体育座りをして頭を膝につけて丸いリンゴの形を表現。ブドウでは、全員が一か所に集まり、リンゴと同様に体育座りに頭を隠してブドウの房を表現している。
11	教師は、授業が終わる合図のピアノを弾く。子どもたちは一列になって来た時と同様に一言も話さず、教室を退出する。

今回観察した授業では、秋という季節に関連した教材が選択され、身体表現も秋に関連するものを中心に上げており、子どもたちの生活と密着した季節感を重視した教材を選択している。授業で使用した楽曲は、リトミックの授業で使用するために特別に作曲されたものであった。楽曲は、2拍子と3拍子が交互に現れたり、転調したりするという工夫がなされている。授業では、子どもたちが、音に対して瞬時に反応することが求められている。

また、季節の果物という身近なテーマを取り上げて、果物のフォルムを身体で表現するなど、対象のイメージを自らの身体を通して膨らませていたこともわかる。ぶどうの房を表現するという課題では、一人ひとりが体を丸めて自分たちが葡萄の粒になり、クラス全員が一所に集まることによって葡萄の房を表現する姿も見られた。他者と協力して何かをつくりだし表現することを自然に行っていたのである。授業の導入では、「今日は寒いね」という身近な生活の話から、子どもたちへ手をあたためるためには、どのような所作をするかについてアイディア

を出させ、その動きを音楽に合わせて表現させている。さらに、音楽に反応して身体の動きを取り入れながら歩くという活動では、子どもたちが次々とアイディアを発表し、全員集中して積極的に授業に参加していた。

授業者であるグランジョアンは、リトミックを取り入れた授業について、筆者のインタビューに対し、以下のように答えを返している。

リトミックを取り入れることは、音楽に関して子どもたち自身の可能性をひらくことに繋がる。また、音楽を自分の身体をつかって掴み取ることができるのである。身体の動きを取り入れることによって、子どもたちの音楽的感覚は効果的に発達させることができる。また同時に、動きの具体的な作用を知ることができる。音楽を聴いて自分に起こったことを、身体の動きを通して再認識することもできる。それを創造して、表現して、自分が考えたことを外に出していく。理解して自身に取り入れたことを外に出す「表現する」こと、再表現することが重要なのである。

ヴィヴィアン・グランジョアン（マイユ小学校、リトミック専科教員）

特別な支援を要するクラスにおけるリトミックの授業は、身体の動きを通して音楽を捉えさせるとともに、子どもたちへ発見の力や創造・即興の力を養い、さらには人とのコミュニケーションの取り方や社会性を身につける上でも効果があることが認められた。

おわりに

2012年、ジュネーヴ州公立小学校における音楽授業の調査へうかがった際、特別な支援を要するクラスのリトミック授業を観察する機会にも恵まれた。ジュネーヴ州の小学校において、リトミックを授業にとりいれることは、子どもたちの音楽理解の助けになり、身体を通して音楽を感じ取る教育がなされていることが理解できた。またリトミックの授業は、学校教育において子どもたちの集中力を育むことにも繋がると多くの教員が語ってくれた。身体を音楽に合わせて自由に動かし表現する時間を有することによって、子どもたちの溢れるエネルギーを発散したり、逆にコントロールする術を身につけさせることができるのである。音楽を聴き、感じたままに表現するリトミックは、子どもたちの発想力や創造力、表現力を豊かにし、社会性や協調性をも養うことができることをジュネーヴの授業から認めることができた。

スイスでは、2012年9月22日「青少年の音楽教育促進に関する決定」について国民投票が行われ、賛成72.7%で可決された。今後この決定により、スイス全土の音楽教育の在り方がより積極的な方向に変化していくことと期待されている。今後も、この変化を見逃さずに研究を継続していきたい。

附記

本研究は、平成25～27年度科学研究費補助金基盤研究（C）課題番号25381214（研究代表者：今 由佳里）の助成を受けて行っている研究成果の一部である。

【注】

1. Conférence intercantonale de l'instruction publique de la Suisse romande et du Tessin, Plan d'Etude Romande, Neuchâtel, 2010
2. Département de l'instruction publique, Les objectifs d'apprentissage de l'école primaire genevoise, Genève, 2000
3. ジュネーヴ州小学校における音楽科授業の具体的な活動例については、筆者の「スイス・ジュネーヴ州における複合的アプローチによる音楽教育」『音楽教育実践ジャーナル』, Vol.8, No.2, pp.70-73, 2011を参照のこと。

【参考文献】

- ・Département Formation et Jeunesse du Canton de Vaud, LA MUSIQUE A L'ECOLE: Guide méthodologique à l'usage des enseignants des classes enfantines et primaires, Loisirs et Pédagogie, 1987.
- ・今由佳里「スイス・フランス語圏の学校音楽教育における表現学習－『ジュネーヴ州の小学校における習得目標』の分析を通して－」『音楽表現学』Vol.5, 2007, pp.97-107.
- ・今由佳里「スイスの小学校教師用指導書における Création に関する内容分析」『中研紀要』Vol.11, 2013, pp.42-55.

